

外来種が繁茂するからといって至るところに園芸植物を植栽することや公園などの草をすべて除去して砂地にし(写真4)、緑を皆無にしてしまうことには抵抗を感じる。新潟海岸の砂丘地に優占していたハマヒルガオ、クロカワズスゲなど公園の一角に繁茂させる工夫を試みて頂きたいものである。

多くの方々に見近な自然に関心を持って接することを願いたい。生活圏における植物の推移に注目することにより、環境の変化について現状認識することをすすめたい。



写真4 マツ林の下草をすべて除去した公園

〈生育を確認した種〉

帰化植物

ヒメスイバ、シロイヌナズナ、オランダミミナグサ、アライドツメクサ、ミチタネツケバナ、カラスノエンドウ、ヒメオドリコソウ、ホトケノザ、タチイヌノフグリ、オオイヌノフグリ、ヘラオオバコ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、コバンソウ、イヌムギ、オオヒゲナガスズメノヒエ、ヒロハウシノケグサ、ムギクサ

在来種

スギナ、スイバ、ハコベ、ツメクサ、ナワシロイチゴ、ハマヒルガオ、ヨモギ、カモジグサ、チガヤ、スズメノカタビラ、クロカワズスゲ

私のこれまでの「マツグミ」の経緯

加藤 泰助

私は20年前、新潟NHKの趣味講座の「山野草」に入り講師が山本敏夫先生でした。ある時、マツグミは富山県が北限だと言ったので私は「違います、私の裏山にもともとあります」と言ったのがはじまりでした。その後、それではと裏山を探していましたが、先生が先に五十公野公園の松林に見つけたのが観察のはじまりでした。その後、先生が病気になるまで亡くなられ、しかも大事な宿主の松が公園の管理人により、テングス病のように他の松に伝染病のような被害を及ぼすと思っただけで伐っていました。

以来、残念で裏山を何年も探し続けていました。

ところが、さらに残念な事が起こりました。平成1年3月山林ボランティアでしり合った真水(しみず)さんが私の裏山の松の間伐を手伝ってくれていました。私が探し見落としたマツグミの松を真水さんが知らずに伐ってしまいました。私がマツグミの事を教えておかなかったのがミスです。私からしようがありませんが、返すがえすも残念な事

でした。

私の執念

しかし、この事で素人の真水さんも俄然マツグミに関心を持ち、非常に協力してくれています。

そして！平成17年11月8日、所用のついでに五十公野公園に寄り、1時間ほど公園の松林をさがして、諦めかけて、思い出の山本先生との伐られた松の所へ寄って、その隣の松をふと見上げたら・・・！

あった！ あった！ ついに見つけた！

そこで、一旦帰り、すぐ真水さんと望遠鏡で確認し、喜んで私はその後11月25日妻にも見せようと連れて行った時、またまたすぐ近くの松に見つけました。これも、早速真水さんが木に登ってたくさん実がついているのを確認してくれました。

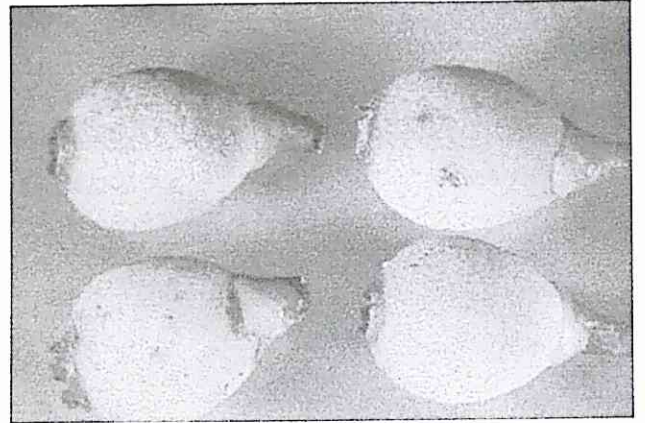
もう一人、やはりボランティアで知り合った和田さんが、新大構内へ仕事に行った際、石沢先生の「マツグミの

存在を知っている人があったら知らせてください」と言う
貼り紙を見て私に知らせておいたのでした。ところが石
沢先生に連絡する手がかりに手間取り、だいぶ遅れました

が、これがまた私が植物の専門家と今後マツグミの詳細な
生態的観察が出来る事になり楽しみにしています。

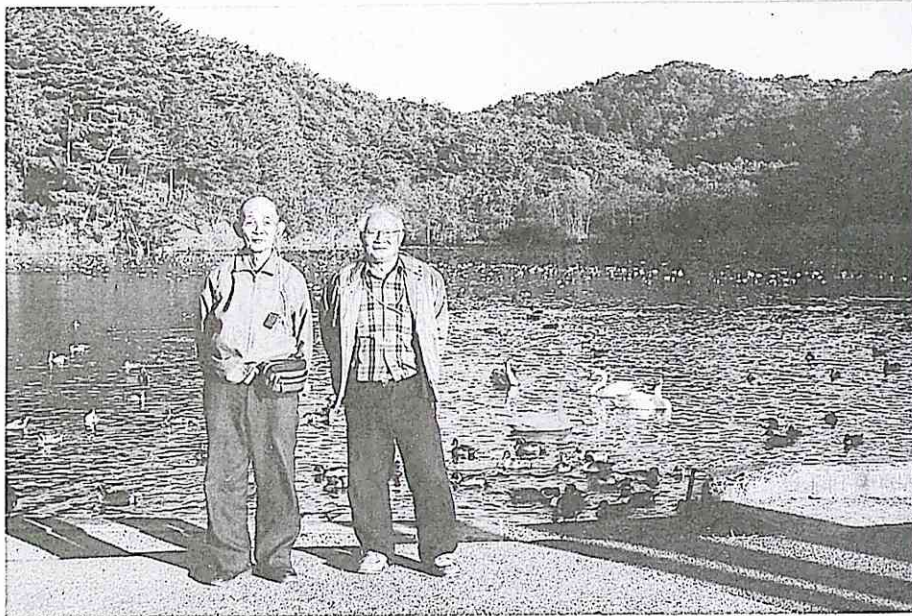


11月21日・石沢先生提供

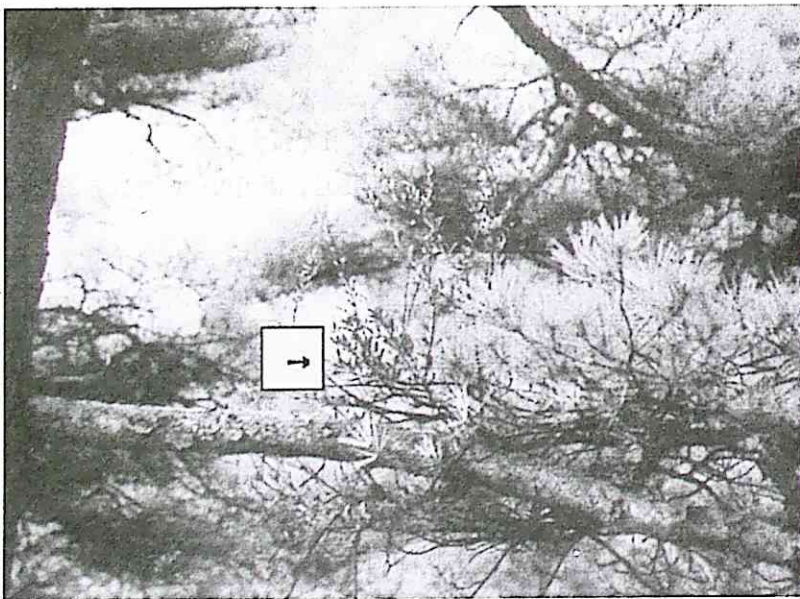


11月21日拾った実の拡大

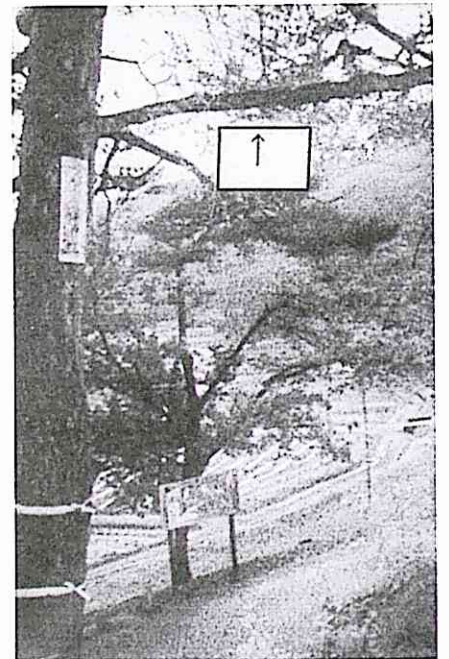
石
沢
先
生
と
私



五十公野にて・11月21日



11月21日・石沢先生提供



11月25日 加藤